



KAWASAKI **KZ1000**

Owner: 純貴さん (25歳)
Area: 埼玉



所有して半年の愛車KZ1000は、1978年式の黒いZ1ルックが渋い。ウエマツ東京本社で購入オーダー時に、青玉の外装をブラックヘリペイント済み。PMSのZ2外装にショートウインカーステー、絞りハンドル、アンコ抜きシート、ウオタニSP2フルタンジスタを装着した。

ZEPHAN UEMATSU Presents

若者よ…なぜ 絶版車を選ぶ？

本誌のテーマは、「40代から再びはじめる旧車LIFEマガジン」だ。でも最近はおヤジ世代だけでなく、若年層ユーザーも増えている。まだ20代の若き彼らが、絶版バイクを選び乗る理由は何なのか？ 絶版ウエマツで愛車を購入した若者ユーザー2人に話を聞いた。



「Z1やZ2じゃなくてKZが欲しかった 今後は風防・旗棒で渋く改造する」

父の背中でバイクに目覚め
コダワリの黒いZ1ルックに

バイク好きな父親の影響を受けて幼少期から興味を持ち始め、ヤマハVMAXやFJRでケツ乗りツーリングに出かけた小学生時代の純貴さん。そんな彼が、KZ所有に至るまでの経緯・車歴を振り返る。

高校を卒業して17歳でバイク免許、18歳でクルマ免許を取り、専門学生19歳の当時に流行していたエクストリーム系のカワサキ・Dトラッカー250を乗り始めた。20歳で大型バイク免許を取ると、21歳でバイク店に就職し、BMW S1000Rを増車し2台持ちの後、Dトラッカーは従兄弟に譲渡。23歳でクルマま

パーツ営業に転職し、漫画『バリバリ伝説』で憧れた後継車ホンダCB750F(C型)を友人から譲り受けた。別の友人がKZ1000MkII乗りで角Z好きだった影響もあって、空冷4発で迫力ある音圧の丸Zに憧れていた。

「高校時代からウエマツに通ってましたが、今春4月に決心してKZを180万円＋ステージ4整備・保証で購入しました。本当はCRSやピエロOB仕様も憧れますけど、まだ当分はオリジナリティを残しつつライトチューンで上品に乗りたいです。父は今ホンダ・ワルキューレに乗ってますが、なかなか仕事と休日が合わないの、一緒にツーリングへ行けたら良いですね！」と話す。



KAWASAKI 350SS

Owner: 小方 稜さん (24歳)

Area: 神奈川



「ナナハンじゃなくサンパンでも とにかくマッハが欲しかった」

大学時代の友人がスポーツタイプのヤマハR3に乗っていた影響で、脱・原チャリとばかりに21歳で中型免許を取った。大学4年生で買ったホンダCB400Four (NC36) は、水冷エンジン4本出しマフラーの旧車ルックだった。大学を卒業して社会人1年目、23歳で350SSを増車し2台持ちとなる。

「バイク雑誌のウエマツ広告を見て、昨夏7月に東京本社に来て見学しました。TV番組『アメトーク』のバイク芸人で、千原ジュニアさんがマッハ乗りだと知り憧れました。ナナハンが欲しいけど大きすぎて重くて…同じハネテールで、ミドルのマッハもアリじゃない？って担当・吉田さんに背中を押されて、跨った姿を鏡で見たらシックリ来たんです。150万円プラステージ4整備・保証で買いました。でも、まだ婚約者に内緒です…」と笑った。ヨソフォアはタンデムしている彼女にプレゼントして免許を取るよう説得し、このサンパンを購入した事実を改めて告白した上で、と夫婦で仲良くツーリングに行く日を本誌も応援したい。

バイク芸人・千原ジュニアさんに 憧れて婚約者に内緒で…

稜さんは18歳でクルマ免許を取り、19歳で原チャリからバイクを乗り始めた。大学へ通学用にホンダ・ダークを買って、街乗りだけで4万キロ以上も走ったと振り返る。

「バイク雑誌のウエマツ広告を見て、昨夏7月に東京本社に来て見学しました。TV番組『アメトーク』のバイク芸人で、千原ジュニアさんがマッハ乗りだと知り憧れました。ナナハンが欲しいけど大きすぎて重くて…同じハネテールで、ミドルのマッハもアリじゃない？って担当・吉田さんに背中を押されて、跨った姿を鏡で見たらシックリ来たんです。150万円プラステージ4整備・保証で買いました。でも、まだ婚約者に内緒です…」と笑った。



レインボー外装の350SSは、1972年式で所有1年。リペイント済み白虹カラーが気に入り、どノーマルで古くても美しいコンディションを保つ。タンクからシートの一直線なデザインもカッコイイ。快適な走りを楽しむためには、リプロ（再生産）品でも構わないと言う。